

# 謎多き安倍氏 検証さらに

【高橋学氏】

出羽の人間としては、安倍と清原、胆沢と私田（秋田）を対比できるという意味で意義がある。地元の方も、自分の所の遺跡を見るだけでなく、外にも目を向けてほしい。外を見ることでまた、自分たちのことも分かることがある。

後三年合戦の最後の舞台となった金沢柵は、金沢城だと昔から言われていた。後三年合戦は11世紀なので、掘れば出てくるだろうと昭和40年代から発掘調査を進めていた。ところが、なかなか11世紀のものが見つからなかった。

平泉の時期のものは出るが、それより古いものは出なかった。しかし、地元の横手市は諦めずに掘っていったら、5年前に初めて11世紀の鉄鍋が出た。おそらくそれが、日本が一番古い鉄鍋ではないかということになっている。

地道な発掘の積み上げが重要で、それは鳥海柵でも言えること。国指定になり、守る範囲も決ま



秋田県 主任 高橋学氏

【大平聡氏】  
武士の発生は中世史の研究者の間で、最近いふんとイメージが変わってきていると思う。中央

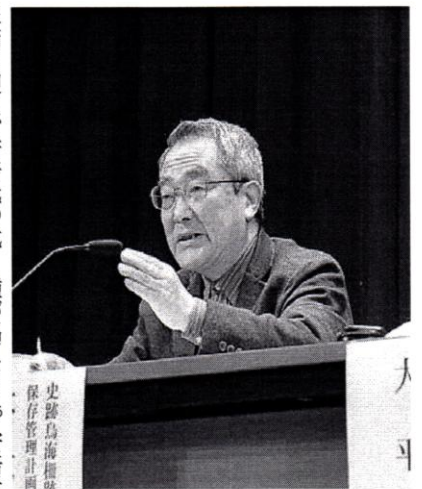
【会場からの質問】  
在庁官人という言葉が多く出てきた。一方の源氏は、武士団として勃興してきた新興の集団。在庁官人は、律令制の中で発展してきた官人、集団と理解した。在庁官人の武力行使の発想と、源氏をはじめとする武士集団の武力行使の発想は同じなのか。

たが、鳥海柵は分かっているところと分かっていないところがある。今までのようにシンポジウムで検証することに加えて、発掘をすることで新たに分かることが大きい。保存・活用と発掘調査の積み重ねを忘れずに進めてほしい。

貴族でも、藤原頼長のように、自ら武装して戦う面白かった。どういう理由で武装化するかは、いろんな契機があると思う。かつては、所領を守るために武装したのが武士の発生になったと考えられてきた

が、さまざまな階層のさまざまな契機での武装化があると言われる。在庁官人と鎌倉幕府をつくらしたような武士たちとはどう違うか。個別の事例を考えなければならぬ。

今後、どうして武装する必要があったのかを考えていくことが大事だろうと思う。武士の発生論として、中世の黎明が東北にあると述べたが、ぜひ中世の軍事の研究者を



本堂寿一氏

【本堂寿一氏】  
今後のシンポジウムの講師を迎え、安倍氏の武士としての性格や、奥州藤原氏の武士としての性格を議論するシンポジウムを開いたほうがいい。

種が出てきた。安倍氏は武士か。それは大きな問題。みんな、源氏だけを武士だ武士だと言っている。安倍氏は何だったのか。それがこれから考え直していかなければならない。大きな問題である。（おわり）



大平聡氏

※12回にわたり連載した「金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る」は、報道部菊池藍が担当しました。次週からは幼稚園・保育園年長児クラスを紹介する「集まれ！ たんこっ元気ツッ」の連載を再開する予定です。

## 金ヶ崎の国指定史跡 鳥海柵を知る

12

— 2014 シンポジウムより —

### パネルディスカッション要旨 IV

- ▽コーディネーター  
本堂寿一氏 (元北上市博物館長)
- ▽パネリスト  
大平 聡氏 (宮城学院女子大学教授)  
高橋信雄氏 (花巻市博物館長)  
高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター主任文化財専門員兼班長)